

ロシア（極東）

2003年のロシア極東経済

ロシア経済が4年連続でプラス成長を続けるなか、2003年のロシア極東の鉱工業生産高は、マガダン州を除けば総じてプラス成長（前年比）を記録した。特にハバロフスク地方については、これまで5年連続してプラス成長を続けているが、2003年も7.2%と好況ぶりを見せ、その成長率は連邦全体水準での成長率（7.0%）を上回った。しかし、極東連邦管区全体の鉱工業生産高について見てみると、前年比成長率は4.7%にとどまり、連邦全体水準からすれば未だに引き離されている。鉱工業生産高に占める割合が大きいセクターは、非鉄金属冶金部門（27.9%）、電力エネルギー部門（18.3%）、機械・金属加工部門（13.2%）、食品部門（12.8%）、燃料部門（9.5%）であった。

極東連邦管区における固定資本投資の伸び率は、37.3%と連邦全体水準（7.0%）を大きく上回り、2002年同様、連邦管区別で首位であったが、固定資本投資の額でみれば連邦全体における投資総額の僅か8.1%に過ぎない。連邦構成主体別でみると、特にサハリン州への固定資本投資額（716億1920万ルーブル）が前年比2.2倍と著しく、極東連邦管区全体（1765億620万ルーブル）の40.6%を占めた。

好況なロシア経済に対する外国投資額が急増する傾向にあるが、極東についても例外ではない。2003年、サハリン州への外国投資は2.9倍、サハ共和国へは2.1倍、沿海地方へは63%増加し、極東連邦管区全体でみると2.5倍増加（各前年比）した。

ロシア極東は取り残され続けるのか？

極東連邦管区はロシア全面積の36%を占めつつも、全人口の4.6%しか居住しておらず、1平方キロメートルあたりの人口密度はたったの1人に過ぎない。しかしながらロシア極東は、未開のままである天然資源エネルギーやその他の鉱物資源が豊富に埋蔵されていることや、ロシア経済そのものが多くの問題・矛盾を残しつつもプーチン政権下で急速な成長の兆しを見せていること等の理由により、昨今再び国際的な注目を浴びつつある。

プーチン大統領は国家元首に就任（2000年春）して以来、極東地域の経済的立ち後はロシアの戦略的利益を損なう

ものであると一度ならず警鐘を鳴らしてきた。2002年3月には、エリツィン政権下の1996年に連邦政府によって承認されたものの、事実上全く実施されないに等しかった「1996年から2005年までの極東ザバイカル経済社会発展連邦特別プログラム」の改訂版（以下、新版「極東ザバイカル・プログラム」と略）が実施期間を2010年まで延長する形で連邦政府によって採択された。

ところが、モスクワの対極東「重視」策の真剣味については未だに少なからず疑問が残る。果たして人口がまばらな同地域は、モスクワの中央官僚によって、なおざりにされ続けるのであろうか。

2004年4月、極東ザバイカル協会事務局（所在地：ハバロフスク市）が新版「極東ザバイカル・プログラム」のこれまでの実施状況を発表した。同プログラムは、連邦予算、関連連邦構成主体行政政府の予算、その他外部から見込まれる投資等を資金源として作られている。2002年度は当初連邦政府の負担分として予算に計上されていた29億6940万ルーブルのうち約23%に過ぎない6億9090万ルーブルのみ、同様に2003年度には27億3240万ルーブルのうち13億7430万ルーブル（約50%）が実際に拠出されたに過ぎなかった。その結果、同年度に予定されていたプログラム内容の実施状況に関しては、例えば電力生産が95.3%、ガスや石炭の調達各々73.8%、81.2%実現されたに止まった。

2003年12月、ロシア連邦政府は新版「極東ザバイカル・プログラム」予算の編成内容の変更を決定し、2004年度予算については連邦予算からの拠出金を当初の予定（19億5060万ルーブル）を50%カットし、10億200万ルーブルとすることを発表した。

プーチン大統領は今年2月にハバロフスクを訪問して極東の指導者たちを集めた会議を主宰した際にも、同地域のインフラ整備が焦眉の課題であり、連邦政府も改めて本腰を入れる必要がある旨、これまで同様の論調を繰り返した。極東の重要性の認識については、大統領サイドと連邦政府サイド間のギャップを認めることも出来よう。昨年末のロシア下院議会選挙、今年3月の大統領選挙での再選を経て、政権基盤を更に「盤石化」した同大統領が、政権2期目において、どこまで極東開発の重視姿勢を言葉上だけでなく実現に漕ぎつけるのか改めて注目したい。

（ERINA調査研究部研究員 伊藤庄一）

	鉱工業生産 [前年比%]		固定資本投資 [前年比%]		小売売上高 [前年比%]		消費者物価 [前年12月比%]		平均実質賃金 ⁽²⁾ [前年比%]		外国からの投資額 [単位：US百万ドル(前年比%)]			
	2002年	2003年	2002年	2003年	2002年	2003年	2002年	2003年	2002年	2003年	2002年	2003年		
ロシア連邦	3.7	7.0	2.6	12.5	9.1	8.0	15.1	12.0	16.2	10.3	19780	(38.7)	29699	(50.1)
極東連邦管区	0.9	4.7	8.4	37.3	13.4	10.6	15.2	12.8	19.1	12.1	141	(48.8)	2847	(2.5倍)
サハ共和国	1.7	1.6	5.0	2.4	22.8	25.1	12.1	11.8	18.7	5.6	291	(2倍)	597	(2.1倍)
沿海地方	1.2	6.1	9.5	2.9	14.3	9.7	13.6	12.8	18.5	16.5	57	(47.8)	63	(10.5)
ハバロフスク地方	6.0	7.2	19.0	6.0	11.5	5.1	17.6	15.3	20.3	12.6	33	(65.0)	27	(18.2)
アムール州	0.2	6.8	23.8	11.9	3.8	4.7	12.4	15.5	24.2	11.9	5	(25倍)	16	(3.2倍)
カムチャッカ州 ⁽¹⁾	16.0	3.4	14.8	66.0	2.0	3.8	14.1	10.2	12.8	13.1	43	(44.9)	53	(23.3)
マガダン州	6.9	10.1	1.6	22.9	7.2	11.2	12.3	11.9	13.7	11.6	5	(80.8)	7	(40.0)
サハリン州	12.5	3.4	31.8	2.2倍	18.3	10.7	17.6	11.8	11.8	15.0	707	(81.7)	2083	(2.9倍)
ユダヤ自治州	11.0	7.0	54.2	52.5	18.0	3.9	19.9	14.5	28.1	10.0	0.4	(-)	0.5	(25.0)
チュコト自治管区	20.5	17.7	2.8倍	76.0	19.3	3.3	32.7	17.0	18.5	11.2	-	-	-	-

出所：『ロシア連邦管区の社会経済状況』（ロシア国家統計委員会）、2002年版・2003年版
『極東連邦管区地域の社会経済状況の基本指標』（ロシア国家統計委員会ハバロフスク支部）、2003年1～12月版
(1)：コリャク自治管区を含む。
(2)：但し、2002年版の公式発表統計値については暫定値のみ。